終電車の死美人（1955）

メディア 映画
ジャンル サスペンス
製作国 日本
色彩 B&W
初公開日 1955/06/21

【解説】
朝日新聞社警視庁担当記者団による『警視庁』をもとに、白石五郎と森田新が脚本を書き、小林恒夫がメガホンをとった作品。終電車内で起きた殺人事件を追う捜査員たちの姿を、ドキュメンタリータッチで描く。
豪雨の夜、三鷹駅止まりの終電車内で若い女性の死体が発見された。現場で見つかった遺留品は、男性の写真が入ったロケットと、有楽町駅で発売された乗車券のみ。警視庁捜査一課が捜査を開始した結果、被害者は中年の男と一緒に乗車したことが判明する。三鷹署にはロケットの写真に写っていた丸山という男がやってきて、被害者の女性の身元が分かった。被害者は書店の店員である湯浅とし子で、婚約者である丸山が使い込んだ公金を補填するため、金策に走っていたという。

【クレジット】
監督 小林恒夫
企画 依田一郎
吉野誠一
小川三喜雄
原作 朝日新聞社警視庁担当記者団
脚本 白石五郎
森田新
撮影 藤井静
美術 北川弘
音楽 紙恭輔
出演 堀雄二
伊藤久哉
星美智子
中原ひとみ
南原伸二

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.